

## 月例会「高層気象」のお知らせ

日時：昭和52年9月29日（木）9.30～12.00

場所：気象庁第1会議室

発表題目：

1. 輻射ゾンデの計算式の検討 穂田 巖（高気台）
2. D55B2 方向探知機の測角精度に及ぼす反射波除去の実験について 福森正光（高気台）

3. 600 gr 気球および 200 gr 気球の浮力と上昇速度の関係について 忠鉢 繁（高気台）
4. ドブソンオゾン分光光度計の国際比較参加の報告 村松久史（気研）
5. 1976/77 年冬期の成層圏循環について 山川 弘（気象庁高層課）

## 日産科学振興財団からの研究助成候補の推薦依頼について

表記財団の研究助成について、下記の要領で本学会あてに推薦の依頼がありました。推薦を希望される会員は、10月15日までに、担当理事 立平良三（〒100 千代田区大手町1-3-4 気象庁予報課）までお申出下さい。

### 記

#### 第4回（昭和52年度）

#### 日産学術研究助成候補推薦要領

##### 1. 助成の趣旨

自然科学を主とする学術の基礎分野における有意義な研究にして、国の助成となるべく重複しないもの（その期間が長期に亘る研究、学際的なグループによって行なわれる研究等）に対し助成を行ない、わが国の基礎学術の向上、進展に寄与しようとするものです。

##### 2. 助成対象研究分野

助成対象を資源・エネルギー、環境の分野におき、本年度は当該分野のうち次のような研究を期待します。必ずしも実験を伴う研究のみでなくいわゆるソフトの研究も含まれます。ただしその場合は調査研究助成として扱います。

- 地域生態系の新しい解析手法に関する研究
- 環境アセスメントの方法に関する基礎的研究
- 人間居住環境の基礎的、総合的研究
- 新しい原理に基づく環境の分析方法の開発
- 大気汚染物質の生物学的作用機構に関する研究
- 環境浄化の新しい方法の研究
- 化学物質の生物学的影響における閾値に関する研究

- 資源の再利用（循環）に関する研究
- 低落差エネルギーの利用に関する研究
- エネルギーの貯蔵に関する研究
- 省エネルギーおよびエネルギーの需要抑制に関する研究
- エネルギー資源および熱機関の利用効率の向上に関する研究
- エネルギーの伝達と移送に関する研究
- その他上記に類する研究

##### 3. 助成対象の研究者

貴学（協）会に関する自然科学分野の基礎的な研究に従事しており、2～4年の期間を要する上記の研究を行なおうとする研究者および研究グループで、その研究成果が学術の進歩、発展に貢献するところが大きいと思われるもの。

##### 4. 研究助成金額

○総額（研究全年度） 約100,000千円

- 研究1件につき30,000千円（調査研究は5,000千円）を限度とします。

○上記のうち第1年度（ $53/4 \sim 54/3$ ）分 約40,000千円

- 研究1件につき5,000千円\*程度とします。

\* 研究期間の長短、年度別の所要額の状況にもよりますので、あまりこの金額にとらわれる必要はありませんが最高額は8,000千円とします。ただし、調査研究については2,000千円程度とし、期間は2年とします。

なお、助成件数は5～7件を予定しています。